

ちよつといひ話

～ この身の汚れ ～

この娑婆は生きて行くだけでも苦であると釈尊は仰せになりました。今、私は我が身についてある観点から見ると、普通の人間でも娑婆で生活すれば知らず知らずの内に身に垢あかが積り、「身は汚れ、心も汚れて」しまっているのではなかろうか、と思います。生理現象とは言え「目からは目糞くそ、耳から耳糞、鼻からは鼻糞が出ますし、口からは歯糞、頭皮から頭垢ふけが出、汗腺からは汗が出、汗は身の温度調節をしますが、分泌物のなかに尿素が含まれています。大量に下からは糞尿が出ます」。それこそ下から糞尿が出なくなったら一大事です。この様に生きる為には人間の穴という穴から不純物（不必要な物）が排出されます。

話はそれですが昔は糞尿を畑の土壤に再利用しました。現在でも何かに利用している事とは思いますが。

この身を清潔に保つ為にはこれ等の新陳代謝が正しく行われなくてははいけません。機能のトラブルで新陳代謝が正常に働かなければ、体内に不具合が生じる事になります。したがって五臓六腑ごぞうろっぶに異変が起き処々に波及し、機能が低下もしくは停止していくと云う事です。例えば、人工透析の事はよく御存じだと思います。仏教的病理と医学的病理と肉体の健康について違いがあるのか、ないのか私には解りませんが、この身が清浄でなくては健康ではない。と言う事は事実でしょう。前にも話しましたが法然上人の浄土念仏はただ一向いっこうに念仏すれば御先祖と現存者が共に清浄になれ救われると言う事です。法然上人の一生は「念佛の為の生活」でありました。現在の僧侶の多くは「生活の為の念佛」に成っておると思います。大きな違いです。私は、病は身・口・意しんくういが引き起こす十悪に依ると思います。医者は医者いしやの立場で研究し、僧侶は僧侶の立場で研鑽けんさんを積み、やがて100%病気が治り、この身の汚れが取れ、清浄な身体を取り戻せるように成り、静かなる入寂を迎えられる事になります。関関

善入院油掛地藏尊